

美術館では大量のダスターを使用します。これは友の会の中の「所蔵品管理サポート部会」を通じて寄付されたもので（サポート部会員を通じて寄付して下さっている方もおられる事を存じております。この場を借りてお礼を申し上げます）、本当にありがたいことです。



サポートのみなさんは、下着やTシャツなどの綿メリヤスの古くなったもの（この『古い』が重要なのです！！頂戴した物の中でも、よれよれで部分的に透けそうなぐらい薄くなり、ちょいと一、二カ所、風穴なんぞが空いた物など、特に貴重品扱いで使用させて頂いております！）を洗浄し（柔軟剤付きなどをお断りしているので・・・、手間ひま掛けさせて本当にすいません）、タグや縫い目など堅い所を取り外し、適当な大きさに切り分けて寄付して下っているのです。これで私たちは絵画や展示ケースのガラスを拭いたり、桐箱を拭いたり、様々な清浄化活動を行います。

↓これはある時、収蔵庫の棚を拭いた（乾拭き）後のダスターです。開館以来使用されていなかった棚を使用前に拭いた物ですが、こんな状態です。収蔵庫内の木部は基本水拭きができません。乾式で丹

念にやってゆくしか方法しかないのですが、ふんだんにダスターが使用出来るおかげで、私たちは作業を進める事ができます。



他の学芸員から市販のウエットティッシュの類いの使用を検討して欲しいという声も有りましたが、調べてみると添加物の中には残留して作品に影響を及ぼす可能性があるものがあるので、今は保留しています。



ところでブロンズ像などを拭いたりする作業は、白手袋そのままを使用する事が多いです。なぜなら片手でなぜている間も、片手は作品を確保していなければならないので、結局「白手」そのもので拭いて行った方が安全な場合が多いからです。美術館で購入する「白手」は意図的に左右の区別の無いタイプ。汚れたら左右を替えて、裏表（手のひら側、甲側の意）使用します。汗をかきやすい学芸は、さらに中に薄いゴムの手袋をしてもらうようにしています。

(N. N.)

